

洛東園 だより

■平成22年4月発行 社会福祉法人 洛東園
■発行責任者:木村晴恵
■〒605-0981 東山区本町15丁目794
■電話番号:561-1171 ■FAX:531-8372
■ホームページアドレス <http://www.wf-rakutouen.com>

ご挨拶

社会福祉法人 洛東園 園長 木村 晴恵

春まさにたけなわの今日この頃、皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素は、社会福祉法人洛東園にご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、すでに公報等にてご承知おきかと存じますが、(仮称)第二洛東園特別養護老人ホーム新築工事計画につきましては、行政ならびに地域の皆様のご理解とご協力により、去る3月25日に無事「地鎮祭」を挙行させて頂くことができました。本紙面上にてご報告させて頂きます。

永らくご心配をお掛けいたしました、当初の計画通り進めることができましたのも一重に皆様のご支援のおかげと深謝申し上げます。誠にありがとうございました。

昭和27年10月に大本山東福寺の社会福祉事業の一環として社会福祉法人洛東園が設立され、「養護老人ホーム」「特別養護老人ホーム」「通所介護」「訪問介護」「居宅介護支援」「地域包括支援センター」「地域密着型サービス」「配食サービス」等多くの事業を推進して参りました。加えて(仮称)第二洛東園特別養護老人ホーム新築工事計画は、社会福祉法人洛東園にとりましては「新たな門出」となります。

1年間の工事期間の無事を願い「大海原に船を漕ぎ出す小さな洛東園」を支えて頂けるよう、どうかよろしくお願い致します。

洛東園の理念

- ◎個性・自主性を尊重し明るい温もりのある生活
- ◎安全と快適な暮らし
- ◎地域に根ざした開かれた施設

□ 第二洛東園

「新たな門出に向けて」

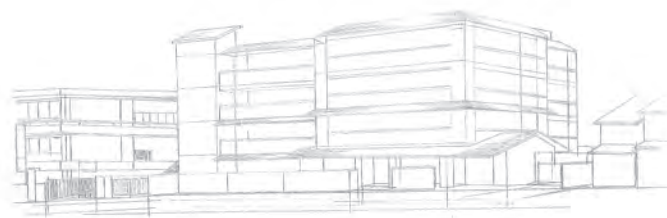
東山区は、全国の政令指定都市行政区の中で、全住民に占める65歳以上の高齢者の比率がもっとも高い地域です。とりわけ歴史的建造物などの多い地域で、再開発事業などに対しての規制が厳しく、住環境の整備がなかなか行われないという現状があります。特別養護老人ホームは現在、洛東園1ヶ所しかなく、地域の方々からは東山区で暮らし続けたいという声や、地元でショートステイを利用したいとの要望が寄せられていましたが、対応することができない状況でした。

そういった地域からの声に応えるべく、洛東園では建設委員会が中心となって、新型特養『(仮称)第二洛東園』の開設に向けて取り組んでいます。計画段階から修道学区において説明会を開催して、地域の方々から意見を頂きながら、周囲の

景観との調和にも充分配慮した施設づくりを進めています。

平成22年4月には建築工事が本格的に始まります。近隣の皆様には大変ご迷惑をおかけ致しますが、地域の皆様のご理解、ご協力を賜りながら、『(仮称)第二洛東園』が東山区にできて本当に良かったと思って頂けるようにしたいと思っています。

どうかご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



(建設概要)

- 開設予定日：平成23年4月1日
- 名称：(仮称)第二洛東園
- 住所：京都市東山区渋谷通本町東入ル(東山税務署東隣、元関西テラー跡地)
- 入所定員：63名 ●ショートステイ：9名
- 鉄筋コンクリート建て(地上4F・地下1F)
- 建築面積：1,113.36㎡ ●延べ面積：3,786.90㎡

■ 特別養護老人ホーム 2年目を迎える今

昨年度、特別養護老人ホームへ3名の新人職員が採用されました。そして、2年目を迎える今、次の一步を踏み出します。

特別養護老人ホームには、13の居室があり1室に4名のご利用者がそれぞれに生活をされています。各居室には、生活しているご利用者の一番身近な存在として、担当者が1名ずついます。その役割を4月から3名の職員も担っていきます。

そこで、それぞれに今後の目標を尋ねてみました。

●西川介護職員

援助を日々提供していく中で、時間と心にゆとりが少しずつ生み出せた自分に気づきました。その時にご利用者の言葉を、「聞く」ことから「聴く」ことができ始めたように感じます。この一步を大切に、耳を傾け、心を傾け、会話だけではなく、表情や動きなどの声にならない声を、今まで以上に聴くことができる職員に成長したいと思います。



●福岡介護職員

1日でも早くご利用者の皆さんの役に立ちたい、そんな思いばかりが先に立ち、自分の手元ばかりに目がいつい



たことに、先輩職員の助言で気づくことができました。その気づきとは、一人きりでは一人の人生を支える事はできないということです。この気づきを大切に、多くの人と協働して皆さんを支えて行こうと決意を新たにしました。

●名倉介護職員

この1年間で得たものとして、改めて精神面の大切さを感じました。頑張れば、頑張るほど足りない自分に悩むことも多かったのですが、ご利用者の表情や言葉に何度も支えられました。同時に自分の表情や言葉にどれほどの影響力があるのかを知ることができました。そんな私の目標は、個人的な感情に振り回されず、客観的な視点で、ご利用者の生活を支えていくことです。



新たな役割に胸を膨らませ、前に進もうとしている3名の職員。今後の活躍に期待をし、先輩職員も一丸となって支えていきたいと思っています。そして、ご利用者に安心して生活して頂けるように、職員一同ケアの充実に努めていきたいと思っています。

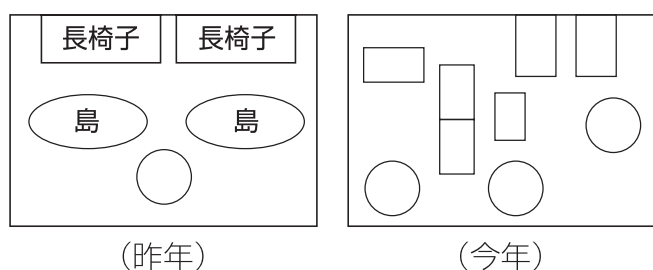
□ デイサービスセンター 「チェンジ」～新たな挑戦～



平成16年に、現在のデイサービスセンターが完成してから、今年で7年目を迎えます。これまでご利用者を迎えるにあたり、2階の一般型デイサービスでは、机を6～7台を一つにした島を2個所と、窓際に長椅子を置き、座席の配置をしておりました。

レクリエーションにおいては、集団での取り組みを主として行ってきました。歩行練習や裁縫・絵・編み物などの個人のニーズには、対応していましたが、計画的な支援が整っておらず、ご利用者が「したい」・「やりたい」・「得意」とされる事への要望に応えられていませんでした。

そこでデイサービスは変わります（一部は既に変わりました）。



少人数による、テーブルの配置により、きめ細やかな機能訓練を提供できるようになりました。



【なぜ変えるのか?】

再度、デイサービスとはどのような所であるか、原点に立ち返り、考えました。一人一人、多種多様なニーズを聞かせて頂き、ご利用者の「できる」・「やりたい」を支援し、いきいきと生活を送って頂くためです。

【これまでとどう変わるのか?】

- ・ 少人数による機能訓練の実施
- ・ 午前中に入浴、午後からは集団による機能訓練への全員参加
- ・ 利用者同士、利用者と職員間の話題の多様化

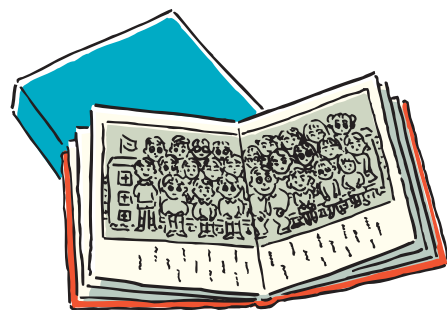
今年に入り、テーブルの配置換えや、個別訓練を少しずつ取り入れています。その中でご利用者の方々から「これはこうしたほうがいい」「私はこんなこともできる」「こんなことをやってみたい」という声が聞こえてくるようになりました。

そして、ご利用者の声と同様に、家族の皆様、ボランティアで来てくださっている地域の皆様からも、スタンドグラス、アクセサリ等の作り方や、裁縫道具（針、糸、生地）の取り扱い方法等、様々な助言を頂きました。

これからも職員一同、ご利用者の「潜在能力」を、より一層引き出す為、新たな挑戦を続けていきたいと思います。



訪問介護 門出



私は、平成9年10月に、訪問介護事業を洛東園が始めたときに、第一期生ヘルパーとして勤務しましたが、この3月に定年を迎えます。

50歳代を洛東園で過ごし、介護の基本を知りたくて介護福祉士、介護支援専門員の資格を取りました。しかし、介護に正解はなく日々勉強であると気付くのに、時間はかかりませんでした。12年6ヶ月、毎日が、勉強でした。

介護に悩んだ時は上司に相談でき、ヘルパー同士話し合うことができる職場だったからこそ、定年までヘルパーとして働く事ができたのだと思います。

それと一番私の力になったこと。それはご利用者の方々の「ありがとう」の声です。とても素敵な「ありがとう」の声を、数え切れないくらい頂いたことが心の支えでした。

私事ですが、定年を迎え、思い出すのは夫婦の危機です。一度だけ主人に「別れようか」と静かな声で言われた事が、今も心の中に鮮明に残っています。ヘルパーをして4年目です。怒鳴って言われたのではなく、静かな一言でした。

仕事と家庭の両立の難しさを学んだ出来事です。

次のステップに進むとき、人間として大事なものを失わずに、一日一日を大切に生きたいと考

えています。介護の原点を学んだ「洛東園」に誇りを持って卒業するのと同時に、私の「門出」が始まります。楽しみな不安…が始まります。

私は12月生まれで「冬」が好きで、寒さも好きです。冬の後には必ず「春」が来るから辛抱の「冬」が大好きで、春になると見事に咲く洛東園の「さくら」が大好きです。

最後になりましたが、本当にありがとうございました。

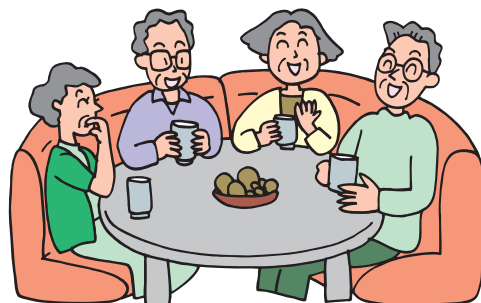
先輩へ

洛東園ヘルパー室に勤め始め、右も左も分からない私に、長い時間をかけて仕事の厳しさと喜びを教えて下さったことに、深く感謝しています。大先輩が去って行かれることへの寂しさと心細さで、つつい下を向きがちになってしまいますが、そんな時、心に浮かぶのは「ヘルパーは常にご利用者の方を向いて仕事をしなさい」という先輩の言葉です。これからも教えていただいた数々のことを胸に、ヘルパー室一同がんばっていきます。

本当にお世話になりました。そして、いつまでもお元気で私達を見守って下さい。

後輩より

■ 地域包括支援センター 再出発



稲葉秀子さんは、昨年の暮れに、ひとつの決心をしました。

訪問介護を利用して、ヘルパーと一緒に自宅の掃除をしていたのですが、その訪問介護の利用を卒業することにしたのです。

長年、病気のご主人の介護をしてきた秀子さん。ご主人が他人の手を借りるのを好まなかったため、全てが秀子さんの肩に。その頃は、買い物に出かけてもご主人が心配で心配で、ゆっくりできずに飛んで帰り、1人きりで耐える日々でした。

その後、秀子さんに訪問介護の援助が入ることになり、週1回来てくれるヘルパーに、介護の悩みを打ち明けては、「もう少し頑張ろう。」と、気を取り直す日々が続きました。

そのご主人も一昨年の冬に亡くなられ、秀子さんは毎日をなんとなく過ごしていました。「大変なお父さんやったけど、いなくなったらやっぱり寂しい。毎日お仏壇に、“今日はこんなことがあったで”って話しかけてるんや。」と、淋しそうな、それでいて懐かしそうな表情で、良く仰おっしゃっていました。

それから1年経ち、一周忌も終え、ひとつ肩の荷を下ろした秀子さん。「このままではあかん。これからは自

分の人生を考えな。お父さんの介護してる間に、外に出んようになったもんやから足も弱ってしまつて。外に出んならん。」と自らを奮い立たせたのです。

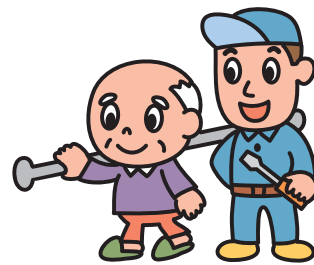
仲のいいお友達が、今熊野の‘老人憩いの家’で、毎週火曜日に行われている運動教室に通っており、秀子さんを誘ってくれました。

暖かくなったら、運動教室に行こうと決め、その為、まずはここ数年煩わづらわしかった白内障の手術をすることにしました。

「この年齢で新しいとこ行くのもなんや怖いけど、しゃべる相手ができたらいいなあ。」と、今から期待と不安でドキドキしています。秀子さんの新しい第一歩、お友達がたくさんできることを願っています。



□ 養護老人ホーム これからの養護



今回のテーマは“門出”という事で、新しく変わりはじめていく養護老人ホームに、これまでどんな歴史があったのか調べてみました。

洛東園は、昭和27年10月に臨済宗東福寺塔頭りんざいしゅう たっちゅう海蔵院かいぞういんに開設され、養老院として始まりました。敷地内から養護棟へ行くには坂道があり、そこは昔、修行僧が歩いていた道です。

開設当時は、今のような複合施設ではなく養護老人ホームのみであり、ご利用者数は約50名程度でしたが、多い時には180名の方が入所されていました。(現在は90名のご利用者が、生活されています。)

昭和55年から入所されている中西さんに、お話を伺いました。「木村園長もここで仕事しottaで、一緒に花に水やりもしたりして。他にも、園のみんなと旅行とか運動会もしたり、これがそうや」と当時の写真を見て、懐かしい様子で話して下さいました。

今年は“新しい事”として、2階の居室の6部屋をご利用者が安全に生活できるように、畳部屋をフローリングにして、段差を解消するバリアフリー工事を行います。施設の環境面を改善するとともに、今年度は今まで以上にご利用者や家族の思いに応えることができるように、職員のスキルアップにも力を入れて取り組んでいきたいと思っています。

□ もみじの家 3年目の春



平成20年1月1日を門出に開所した小規模多機能もみじの家も、地域の皆様方のご理解、ご協力により、3年目の春を迎えました。

昨年度は町内会の組長として町内の方々と連携をとりながら、町内行事の準備から参加させて頂くことができました。地域の活動に参加することで、より深い信頼関係を構築することができたのではないかと思います。温かく迎えて、見守って下さった皆様方に感謝するとともに、決意も新たに、「地域に根ざした開かれた施設」という理念のもと、地域との交流を深めていきたいと考えています。

3月5日にはもみじの家で、町内の方々、民生委員、消防隊、消防分団、自主防災会と合同の避難訓練を行いました。ご参加頂きました皆様、本当にありがとうございました。

今年度からは新たに、貞教消防団に入団し、防火・防災意識を高めて、万が一の火災等の災害発生時に被害を最小限に抑えるために、貞教学区の火災予防活動、防災活動に取り組んでいきたいと考えております。頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

洛東園の行事予定

施設名	4 月	5 月	6 月
養護老人ホーム	花見会	新緑会	映画上映会
特別養護老人ホーム	お花見ドライブ	新緑会	買い物ツアー
デイサービスセンター	お花見	新緑会	介護者教室
もみじの家	お花見	新緑会	梅ジュース作り・運営推進会議
全 体	新人研修	新人研修	開山忌法要

..... その他、クラブなども随時行っております。

寄付・寄贈

本家西尾ハッ橋(株)様、金子 慶泉様、平岡 達子様、山本 重信様、村上 弘様、長田 せつ子様、橋本浩二・邦子様、吉田 紀二様、岸本 芳枝様、渡辺造園様、京都婚礼衣装卸協同組合様、(株)やまざき様、(株)朱常分店様、春田様、京都大谷高等学校 国際ハレジャ・レオクラブ様、(株)世界文藝社 東京本社様、読売新聞大阪本社事業局 企画事業部様、木下大サーカス(株) 代表取締役 木下 唯志様、京都水産協会 池本 周三様、京都青果協会 内田 昌一様、(財)菊葉文化協会 理事長 藤森 昭一様、北川 喜美子様、大岩 君子様 ありがとうございました。

順不同

編集後記

今回の洛東園だよりのテーマは「門出」ということで、様々な門出を取り上げてみました。今年も早いもので桜の季節が来ました。洛東園の桜もきれいに咲いています。洛東園にも新人職員が入り、新年度がスタートしました。入学式が終わると、電車の中では、まっさらな靴と鞆と、ピシッとアイロンのかかった真新しい制服を着た学生や、おろしたてのスーツを着た社会人を大勢見かけます。そんな夢と希望にあふれた新入学生、新社会人を見ると、自分にもあったその頃を思い出します。そして、初心を忘れがちである今の自分に反省し、新たな気持ちで「がんばらなければ!」と思う今日この頃です。

(広報委員一同)

洛東園だよりの

発行／社会福祉法人 洛東園

〒605-0981 東山区本町15丁目794

電話番号:561-1171 FAX:531-8372

ホームページアドレス

<http://www.wf-rakutouen.com>

※尚、記事中の写真は全てご本人様、ご家族様の承諾を得て掲載しております。

